

例会報告：2015年2月17日（曇り） 第1878回 通常例会

会場：小田原卸センター内会議室
日時：2015年2月17日 12:30~13:30

◆ 会長挨拶



齋藤 永 会長

皆さんこんにちは、今日は肌寒く感じられますね。東京では朝から雪が降っていましたとテレビで言っていました。今日は久しぶりに偉人の言葉を引用したお話をしたいと思います。

「人に交わるには、信を持ってすべし。己れ人を信じて、人もまた己れを信ず。」

という言葉があります。これは皆さんご承知の日本の蘭学者・啓蒙思想家・教育者でもあります、福沢諭吉の言葉です。

少し前になりますが人気の食品メーカーや食肉加工会社、さらには老舗料亭などの食品偽装事件がたて続けに起きた年がありました。マスコミ各社はこぞって報道し、社会全体が企業の食品偽装事件の渦に巻き込まれた事を記憶しています。

この件で消費者は商品の表示内容に絶対的信頼をおき、商品の安全性を企業に委ねていた、と言う一方通行の信頼関係が明るみになったように感じます。消費者はあらためて職の安全について考えさせられたことでしょうか。

さて、個人と個人でしたらどうなるんでしょう。企業と消費者のように消費者が一方向的に信用するなど、一方通行の関係では成り立ちません。

たとえば「私のことを信用できないのであれば、あなたの事を信用出来ません」と言うせりふ。巷では良く耳にするような話ですが、良く聞くと相手に対して自分を一方的に信用しろとも言うような圧力を感じさせます。

人はお互いに信じあいお互いに頼りあうことで、初めて文字通りの信頼関係が成り立つものではないでしょうか。この関係が成り立つまでは時間がかかりますが、とてもかけがえのない宝物になります。

福沢諭吉は「友人を作るためには、まず自分から相手を信じなさい」としているのです。自分も信頼でき、相手からも信頼を得られる「真の友」の関係を築いて行きましょう。それにはまず、あなた自身が相手を信頼する事が近道です。等クラブもエレクトが亡くなり今、問題を抱えています。一人一人信頼しあってこの難関を乗り切っていきましょう。皆さんのご協力をお願いして、会長挨拶に代えさせていただきます。今日もよろしくお願いたします。

◆ 幹事報告



大川 久弥 幹事

1)一昨日、15日にローターアクトの年次大会が横須賀でおこなわれました。当クラブからは、私を含めて7名が参加してまいりました。内容は米軍基地についてのディベートや軍港クルーズなど、大変有意義な時間を過ごしてきました。

- 2) 先週ご案内を配布しました通り、次週は臨時総会がありますので、全員参加して頂きます様お願い致します。
- 3) 理事の方にはご案内が届いていると思いますが、定例理事会が当初予定の3月3日から、次週例会終了後に変更となりましたので、お間違えの無いようお願い致します。

◆ 出席報告

小川 和夫 委員長

出席報告	会員数	出席	M.U	出席率
2月17日	48(42)	31	1	76.19%
2月10日	48(45)	32	4	80.00%
2月3日	48(43)	39	0	90.7%

【欠席者】11名

辻村 彰秀、小林 和彦、臼井 真一、須藤 公司、大川 裕、木村 啓滋、杉本 博愛、一寸木 信雄、大野 英明、仲 徳子、石内 正彦

【今回MU】1名

須藤 公司 (2/15 小田原城北RAC年次大会)

【前回MU】2名増加

露木 清勝 (2/15 小田原城北RAC年次大会)
石坂 弘之 (2/15 小田原城北RAC年次大会)

【前々回MU】増加なし

◆ 委員会報告

地区ローターアクト副委員長・露木会員

2/15(日)に横須賀で第26回ローターアクト地区年次大会が開催されました。今日の講師・東さんもOBとして参加してください、ありがとうございました。非常に勉強になる素晴らしい大会で、小田原城北ローターアクトクラブの羽生くんが地区代表でリーダーシップを発揮していたと思います。「横須賀に軍事基地は必要か」をテーマにディベートが行われ、その後遊覧船で軍港クルーズを実施しました。自分の目で見ると改めて考えさせられ、『気づき』というテーマに相応しい内容だったと思います。

清 会員

がんと闘っているフットサルの久光選手が2/25(水)午後2時からコンベンションホールでスピーチを予定しています。法人会で開催しますのでぜひご参加ください。もう一つはスマホとタブレットについての勉強会のご案内です。よろしくお願いたします。

◆ 卓話

「小田原の地震ハザード」



防災科学技術研究所 東 宏樹 様

防災科学技術研究所という国の防災の研究所におります東宏樹と申します。私は今32歳で鎌倉生まれ、慶応大学藤沢キャンパスで大学・大学院と勉強していました。研究所はつくば市にあり、現在はその近くの北条に住んでいます。北条は小田原の北條氏と由縁のある土地で、遠いつくば市まで北條氏の領地だった時があり名前が残っているそうです。私は2009年に鎌倉ローターアクトクラブに入りました。30歳になるまでみっちり地区の仕事をさせてもらい、小田原の皆さんにも良くしていただきましたので、恩返しに私が知っている地震のことをお伝えしたくて参りました。

元々私は情報技術に関する勉強をしており、今は地震と情報ツールを繋ぐような仕事をしています。地震の被害を軽減するための情報ツール、主に防災に役立つスマホのアプリ開発をしています。スマホを地震計にする、ここで地震が起きた時の被害を教えてくれる、地震度予測地図を見られる、そういったアプリです。それ以外にもPCから見られる色々な情報をお出ししています。今日は皆様にご存知の事をお話したいと思っております。最初に「全国地震度予測地図」という国が毎年発表している地震のハザードマップをお配りします。

まず、知らなくていいこと。マスコミや週刊誌の情報はほとんど無視して構いません。電波がどう、GPSがどう、ペットの反応や地震雲などは科学的に立証されていません。いたずらに不安を煽る情報も意味のないもので、それらは見なくていい情報です。知っておいていただきたいのは地震についての心構えです。自分の身を助ける、仲間同士で助け合う、公的機関の助け、このバランスが重要です。

地震ハザードという言葉の「ハザード」とは「自然現象が元々持っている危険性」です。地震の揺れや津波、台風、竜巻、斜面崩壊など。大きな竜巻が起こっても人里離れた場所なら被害は出ません。人間社会と合わさって被害が生じます。人間社会の脆弱性は過密都市や人の繋がりが無い地域、古い建物などに現れます。ハザード側を変えることはできないので、防災減災は人間側の脆弱性を小さくする取り組みになります。被害が起こる前のリスクを防ぐわけです。J-SHIS(地震ハザードステーション)というサービスがあります。地震本部という国の機関が毎年地震発生の評価、揺れの評価を発表しており、その科学的データを全てまとめているのがJ-SHISです。地震という自然現象をできるだけ正確に再現して地図を作り、モデル化して情報を分かりやすくお伝えしています。地図やアプリで、どの場所にどのような地震の危険があるかが分かります。地震保険の算定根拠や公的機関の防災設備、事業所の立地検討、建築や不動産会社の参考としても使われています。注意点として、J-SHISの情報は予知ではなくて予測、科学的根拠があり確率が明らかなものです。

バラつきを含んだ、色々な未来を相対的に把握していただくのがJ-SHISで出しているハザード情報です。時間を見通す目があったとしたら5年10年後は予測できても、100年後1000年後の未来を知るのには難しいでしょう。しかし地震予測は逆で、未来はある程度予測できても明日や来年のことは分かりません。また、J-SHISの情報は自然現象の側だけで、人間社会がどうなるかは出ていません。何を目的として使うかによって取り出すべき情報は異なります。よく聞く震度という用語は幅を持ったランクの数値です。機械で計ると計測震度として細かい数値が出ますが、幅を持った値が震度となります。同じ震度3でも2.5から3.5まで幅があるわけです。震度7は6.5以上で、上は全てを含んでいます。マグニチュードは1回の地震で1つ決まりますが、震度は場所によって異なります。

確率論的地震度予測地図という地図は、科学的根拠のあるぎりぎりの近さとなる30年50年後の予測で、一定以上の揺れが来る確率は濃い赤に塗られています。小田原市鬼柳で今後30年間に震度6弱以上の地震がくる確率は57%、6強以上の非常に強い揺れは17.8%。人間が30年間で交通事故に遭う確率は24%と言われておりますので、それと同じくらいの対策が必要となります。近くにある断層帯などを重ね合わせて確率の地図にしているのが確率論的地震度予測地図。東日本大震災で想定外という言葉が出ましたが、長い期間まで見ると想定外はどんどん減らせます。それが長期間平均ハザード地図で最長10万年間です。沢山の地震を長い年月に渡ってずっと起こしていくと実際に一番揺れた部分がここだということです。

J-SHISサイトでチェックボックスを入れると、どこでどんな地震の確率が高いか見ることが出来ます。自治体などでは『もし地震が起こったらどうなるか』というシナリオの地震を想定したハザードマップをよく配布しており、そういったものも見ることが出来ます。地震は断層の評価だけでなく揺られる側の地面も重要で、地形や地盤の固さ軟らかさを考慮する必要があります。お配りした資料にも載っていますので、地震ハザードカルテをご覧ください。

何が怖いというイメージの備え方ではなくて、科学的な本場に危ないことに備える社会になって欲しいです。災害が起こると義援金が集まりますが、事後対応でなく事前の防災にお金をかけると4倍効率が良いそうです。私たちが持つ情報を技術で可視化し皆が使えるようにして、命や未来を大切に自然と一緒に生きてゆく社会にしていければ、と願っています。

